

所 属	基盤整備部 公園緑地課		
担当(係)名	世界淡水魚園整備グループ	内 線	

(款) 8 土木費	(項) 5 都市計画費	(目) (4) 都市公園費
(明細書事業名) 世界淡水魚園整備事業		

1 当初予算(要求)額(千円)

225,444

2 当初予算(決定)額(千円)

174,580

(前年度109,158)

【財源内訳】

その他

15,526

一般財源

159,054

3 事業概要

【整備場所】

羽島郡川島町笠田町地内(東海北陸自動車道川島パーキングエリア下り線側に併設)

【面積】

約3.4ha

【事業主体】

・県...公園整備

・第三セクター「(株)オアシスパーク」...商業施設の開発、整備、運営

((株)オアシスパークは県、地元自治体及び民間企業が出資 平成10年10月設立)

・民間企業...淡水水族館整備

【整備コンセプト】

「人類永遠の伴侶、淡水生物の世界」をテーマに川や湖沼に棲息する生物と人間との様々な関わりを紹介する淡水水族園として整備を行う。

水路を中心に、水族館、商業施設等の建築物を配した賑わいのある水辺景観の創出を図り、当該区域全体を「教育的効果が高く、集客性の高い施設」を基調に整備を行う。

民間企業の活力と経営感覚を導入し、「美濃ミュージアム街道」の拠点施設として、また、「河川環境楽園」の中核施設にふさわしい施設整備を行うとともに、交流産業の活性化を図る。

併設の国営公園「木曽川水園」・ハイウェイオアシス・川島パーキングエリア、自然共生研究センター等との整合性に留意し一帯が有機的に機能するよう整備を行う。

第1期及び第2期事業に分けて段階的に整備を行う。(ステージストラクチャー)

【施設の内容】

県営公園「世界淡水魚園」

【第1期計画】(平成11年7月17日開園)

商業施設4棟 (1)コンビニエンスショップ・ファーストフードショップ

(2)インフォメーション、県産品販売施設

(3)アミューズメント施設

(4)レストラン、管理事務所

水路(延長約100m、幅5~13m、水深2m)

芝生広場(約2.5ha 光のモニュメント、魚の遊具を設置)

バーベキュー広場 バーベキューブース10 等

【第2期計画】

水路の延長及び商業施設(平成14年7月28日オープン)

立木やビオトープなどを有する自然性の高い水路と水際の商業施設が一体化した賑

わいと楽しみのあるエコロジカルモールの整備。

<水路延長> (県整備)

- ・水路延長 延長190m、幅約5m、水深1.0～1.2m
- ・催し広場、霧の遊び場の設置

<商業施設> (株オアシスパーク整備)

- ・商業施設2店舗 (1)ベーカリーカフェ
(2)デザート&甘味処
- ・常設屋台2棟(5ブース)

淡水水族館(平成16年夏オープン予定)

「長良川(岐阜県の川)の源流から河口までと世界の淡水魚」を展示テーマに自然を総合的に据え、生息環境を綿密に再現したもので、魚類だけでなく、昆虫、鳥類、小動物及び水生植物等を展示した水族館。

- ・水族館の規模 4階建(延床面積 8,010㎡)

観覧車(平成16年夏オープン予定)

河川環境楽園の魅力さをさらに高め、同楽園のランドマークと東海北陸自動車道や他地域からの遠景のシンボルとするとともに、淡水水族館との相乗効果により、一層の集客を図るために整備。

建設及び運営は民間事業者が自らの責任と負担により行う「民設民営」とする。

4 施策の効果

魅力ある集客性の高い施設を整備することにより、地域の活性化と「快適な生活を楽しめる地域づくり」に寄与する。

(1)地域の活性化

新高速三道(東海北陸自動車道、東海環状自動車道、中部縦貫自動車道)の整備の進捗とあわせ、「開かれた岐阜県」として、全国から多くの人々が集まる広域レクリエーションの核となり、地域の活性化に寄与することを目指す。

【実績】河川環境楽園入園者数

- 平成11年度 2,221,820人
- 平成12年度 2,776,320人
- 平成13年度 3,374,460人
- 平成14年9月8日 開園からの累計入園者延べ1,000万人達成

(2)地域の振興

高速道路と世界淡水魚園を結ぶことにより、広域対象の情報の発信拠点として当県のPRを図るとともに、地元の雇用機会の増大、地域住民の利便性の向上及び地元特産品等の展示、販売を通じた地域の振興を図る。

【実績】

- ・園内インフォメーションにおける、県及び県内各地のパンフレット等の設置及びPR
- ・商業施設等における地元住民の雇用
- ・県産品販売施設における地元産品の展示・販売

(3)県産品の振興

世界淡水魚園内に整備された、県特産品販売所(ギフトベスト)を県産品販売の拠点として、県産品の販売促進を図る。

(4)教育・文化の振興

川や湖沼に棲息する生物と人間との様々な関わりを紹介し、楽しみながら河川環境等を学ぶことが出来る淡水水族館の整備を図る。

(5)民間活用

第三セクター「(株)オアシスパーク」等民間企業との協働により、民間のノウハウ・資金等の活用を図りながら英知を結集して、出来る限り少ないコストで、他に類

例のない公園の整備を目指す。

【実績】

- ・第三セクター設立時の民間企業数1社 平成15年1月末現在10社
- ・民間を中心とする商業施設等の計画

5 要求の内容

水路延長工事等:75,000千円

水族館及び観覧車(民設民営)の建設に併せ、14年度延長した水路の再延長工事費等。(長さ40m)

年間イベント経費:3,600千円

世界淡水魚園の集客を図り、魅力ある公園としていくため実施するためのイベント経費。

公園維持管理費:111,536千円

良好な県営公園を維持管理していくため、清掃、警備、植栽、インフォメーション運営や、建物・施設の保守点検業務等の委託費

地元市町村への市町村交付金:511千円

水族館運営事業費:30,477千円

平成16年夏オープン前に水族館を周知するための広報宣伝経費等

水族館整備計画事業費:1,600千円

PFI専門家に相談するための経費

6 用語の解説

木曽川水園

国土交通省が整備・管理する公園。木曽川の上流域から下流域までの情景・風景をモチーフに、生きた川の自然にふれながら楽しむことができる。

ハイウェイオアシス

東海北陸自動車道の川島パーキングエリアと公園を一体的に利用できるよう整備した駐車場。高速道路利用者がこの駐車場から直接公園を利用することができる。

自然共生研究センター

貴重で身近な自然資源である河川や湖沼の生態系保全の研究・技術開発を行う研究施設で国土交通省土木研究所が設置した。

ビオトープ

野生生物が共存共生できる生態系をもった場所という意味で、ドイツ語の生物を意味するbioと場所を意味するtopeの合成語。生態系の崩壊が問題となっている今、ビオトープの復元は地域の生態系を守る上で大切。

河川環境楽園

約50ha余りの敷地に国営公園、県営公園「世界淡水魚園」、自然共生研究センター、東海北陸自動車道・川島パーキングエリアなどで構成された見どころいっぱいの日本初の環境共生型のテーマパーク。

7 決定内容

<主な決定項目>

- ・水路延長工事等、公園維持管理費 163,069千円
- ・年間イベント経費 3,600千円
- ・地元自治体への市町村交付金 511千円
- ・水族館運営事業費 3,100千円

水族館名称等募集事業、日本動物園水族館協会会費に係る予算に限定して計上することとし、集客を図るためのPR、行催事の検討などの準備業務については、県と

(株)江ノ島水族館との役割分担などを明確にした上で、改めて予算計上を検討することとした。